

# 鳥インフルエンザの発生を防ぐために!!



鶏やハクチョウなどから高病原性鳥インフルエンザが全国各地で発生したり、ウイルスが検出されたりしています。いずれも渡り鳥が関わっている様子が強く疑われます。

近くに渡り鳥の来る沼や川はありませんか！鶏舎の周りに野鳥は多くいませんか！すずめやカラスなどが鶏舎を自由に出入りしていませんか！

渡り鳥の飛来をとめることは出来ませんが、鶏舎の中へウイルスが侵入するのを防ぐことは可能です。

## ●予防のポイント1 ……野鳥・ねずみ等の鶏舎侵入を防ぐ

- 渡り鳥の多くはもともとインフルエンザウイルスと共生していてウイルスをもっていることが多いのです。渡り鳥が湖沼や河川に飛来し、その糞に接触したり糞に汚れた水を飲んだ野鳥（すずめ、カラス）やねずみなどの野生動物が感染し、さらにその野鳥やねずみなどが鶏舎内へ入ることによって鶏へ感染するのです。
- 鶏の飲用水を消毒する、飲用水へ野鳥の糞が入らないようにする、鶏舎周辺へ野鳥が集まってこないように溢した飼料を清掃する…などが大切です。
- 網目が2cm角以下の防鳥ネットを張る必要はないか、防鳥ネットに破れがないか、鶏糞の搬出口から野鳥が入らないか…など、もう一度点検しましょう。

## ●予防のポイント2 ……ウイルスの量を減らす消毒を励行

- インフルエンザウイルスは、消毒薬に対して弱いのです。日常、養鶏農家が使っている消毒薬でよく効きます。ウイルスは1,000個以上あると感染するがそれ以下だとほとんど感染しないとされています。仮に周辺にウイルスが近づいてきたとしても感染させない…そのためには鶏舎周辺を定期的に消毒しましょう。
- 農場入り口、鶏舎入り口には、最低、踏み込み消毒槽を設け、消毒液の交換はまめにやりましょう。消毒薬の希釈倍数を守ってください。
- 衣服、長靴の消毒、搬入する器具、車両を必ず消毒しましょう。

## ●予防のポイント3 ……基本的な衛生管理を実行

- 外来の、人や車両の農場への出入りは極力控えるか、消毒に協力してもらいましょう。
- 従業員は、農場専用又は鶏舎専用の作業服等への着替え・履き替えを実行しましょう。
- 作業は出来るだけ入口から出口へ一方通行にし、出入りの人の接触を避けましょう。
- 鶏を導入する場合、導入元の衛生状況を把握しておきましょう。

**異常かな?…と思ったら、すぐ先ず家畜保健衛生所へ通報を!**

社団法人 静岡県畜産協会

〒420-0838 静岡市葵区相生町14番26-3号 静岡県獣医畜産会館内  
TEL 054-253-3218 FAX 054-253-3215